

千葉大学大学院教育学研究科長 殿

所属 教育学研究科高度教職実践専攻

氏名 _____

③高度教育実践Ⅰ（実習）代替単位申請書

以下の「教育実践レポートⅠ」及び別紙④職務実績証明書により、「高度教育実践Ⅰ（実習）」（3単位）の単位認定を申請致します。

「教育実践レポートⅠ」

【例】

教員生活を振り返ってみると、初期層（初任から5年目）の時期に大切にしていたものは、学級の子ども達とのかかわりであり、授業力の向上であった。楽しく居場所のある学級経営や「わかる授業」ができる指導力を身につけたいと考えていた。つまり「自学級中心期」である。

異動を経験した中期（6年目～12年目）は、校務分掌（体育主任等）や部活動の指導に励んだ時期であった。学級から学年や学校全体への指導を心がけるようになった。後輩の指導は、自分自身の学びを再確認するよい機会となった。「学級外役割充実期」である

次の異動により、道徳研究校に着任したのは大きな転機であった。校内授業研究や毎年の公開研究会と研究主任の経験は、自分の授業を見つめ、成長させる機会となった。教材開発の意欲や学び続けることの必要性を実感した時期である。・・・・

（400字程度）

【教育実践レポートⅠの書き方】（例）

- ・パソコンでの作成可。（署名は直筆）400字程度で。（超えても可）
- ・これまでの教員生活を振り返り、どのような職務を遂行してきたか、学級担任として重視してきたこと・心がけてきたことや課題をもって取り組んできたことを整理し、現在、自分がどう考えているかまとめる。
- ・校内授業研究、各種研究会での発表、教育委員会や教育センター等主催の提案発表等の内容でもよい。それらを通して自分が得たことをまとめる。

④職務実績証明書(記入例)

※記載の年齢、経験年数は本年の3月31日現在で記入

氏名	千葉太郎		千葉	年齢	38歳	現在校年数	3年
						経験年数	16年
所属	千葉市立弥生東小学校						
勤務した学校での主な校務分掌・主任等(年度)	研究主任(R3~R6年度) 道徳推進教師(H30・R1年度) 教育相談コーディネーター(H29年度) 生徒指導主任(H27・H28年度) 体育主任(H23年度~H26年度)						
	担任・担当等	主な役割・担当					
過去5年の担任・担当等(年度)	5年生(R7年度)	学年副主任 体育的行事担当					
	6年生(R6年度)	学年副主任 体育的行事担当					
	5年生(R5年度)	学年副主任 体育的行事担当					
	一(R4年度)	千葉市長期研修生(千葉大学)					
	6年生(R3年度)	学年主任 学年経営全般					
	授業名・研究主題等	主な内容等					
研究歴・実践歴等(研究授業・研究会発表・長期研修等)	道徳研究授業(R6年度)	地区初任研で道徳授業「手品師」を公開した。					
	研究主題「心に響く道徳教育のありかた」(R3年度)	千葉市研究主任研修会で、学校で取り組んだ道徳教育研究について発表した。					
	研究主題「問題解決的な道徳授業」(R2年度)	千葉市長期研修生として、道徳における問題解決的な学習の在り方について研究、実践し、その成果と課題の報告書をまとめた。					
	体育研究授業(H29年度)	校内研で「飛び箱」の授業を公開した。					
※ 勤務状況 総合所見	※所属長記入欄						

以上の職務実績を証明します。

令和8年 3月23日

学校・機関等名 千葉市立弥生東小学校

所属長名 校長 稲毛花子

稻毛

氏名 _____

⑤高度教育実践Ⅱ（実習）代替単位申請書

以下の「教育実践レポートⅡ」及び別紙④職務実績証明書により、「高度教育実践Ⅱ（実習）」（3単位）の単位認定を申請致します。

「教育実践レポートⅡ」

【例1】

教職大学院では、「外国にルーツをもつ児童への日本語指導の在り方」をテーマとして研究をしたいと考えている。

私が在籍するA小学校には、外国にルーツをもつ児童が多く、日本語指導教室で取り出し指導を3年間行ってきた。8カ国児童の日本語指導から、個人の持つ能力だけでなく、出身国による躊躇の違いがあることに気づき、その対応方法について、試行錯誤をしながら実践を重ねた。その実践研究結果を市教育研究会国際理解部会で「外国にルーツをもつ子どもたちの日本語習得の躊躇傾向と対応」（平成28年度）を発表している。

地区の初任者研修会では、「母語を使わない日本語による日本語指導の授業」を公開した。具体物を使い、ゆっくりはつきりと発音しながら、・・・・。（中略）

しかし、これまでの実践研究で十分とは考えておらず、さらにより効果的な日本語指導の在り方について研究を深めたい。

【例2】

教職大学院では「道徳授業における問題解決的な学習の効果」について研究したい。

私は平成27年度千葉県長期研修生として、千葉大学で研修をした。テーマは「道徳における問題解決的な学習」である。問題解決的な学習のステップを試行するとともに検証授業の結果、問題（課題）をしっかりと把握できた子は、課題解決の意欲が高まることその後の実践に結びつきやすいことがわかった。・・・・（中略）

道徳研究校では、道徳主任（平成25～27年）を務め、公開研究会（平成27年度）では、「手品師」（5年）を問題解決的な学習アプローチで実践した。・・・・（後略）

【例3】

教職大学院では「道徳授業における問題解決的な学習の効果」について研究したい。

私は「道徳の教科化」の動きから、道徳における問題解決的な学習について関心をもった。これまで、社会科を中心に市教育研究会の授業研究や校内授業研究実践を積み重ねてきた。そのときのアプローチが「問題解決的学習」である。今回は道徳における問題解決的な学習と他の教科での学習での違いをこれまでの研究から明確にして取り組んでいく。・・・・（中略）初任者研修会で「社会科の授業」について講師を務め、教材分析や問題解決的な指導について、小学校3年生「わたしたちの○○市」を基に指導をした。（後略）

【教育実践レポートⅡの書き方】

- ・パソコンでの作成可。（署名は直筆）800字程度で。（超えても可）
- ・研究課題に関連するこれまでの教育実践・取り組みをまとめる。課題意識が明確にわかるようにすること。
- ・研究課題に関連する校内授業研究、各種研究会での発表、教育委員会や教育センター等主催の提案発表等の内容でもよい。
- ・研究課題に関連する各種研究会・研修会の講師やその内容でもよい。